

公益社団法人日本青年会議所 関東地区 茨城ブロック協議会
2024 年度 実行計画(案)

基本方針	
ブロック大会連絡会議 議長 海老原 明男	
ブロック大会 連絡会議の 目指す未来	ブロック大会での青年会議所の運動が、茨城に住み暮らす人々や行政にとってのモデルケースとなり、各地域に新たなイノベーションを創出し、持続的に地域が発展して行くこと。
ブロック大会 連絡会議 設置背景	近年、社会情勢の変化が激しく、各地域においても変化に対応するため、転換期を求める声が増えており、新たな茨城を創造する未来を見据えた青年会議所らしい運動を発信する場が必要です。
ブロック大会 連絡会議 設置目的	主管 LOM と開催地に対して、我々が開催地のシンクタンクとなり、地域をより発展させる運動のモデルケースを創出するとともに、茨城全体の各地域においての青年会議所の存在価値を高めながら、各 LOM の運動の効果を最大化させることを目的とします。

① 第 53 回ブロック大会日立大会の実施

背景	ブロック大会はブロック協議会の運動の最大の発信の場であり、地域のイノベーションを作っていく大切な機会となります。しかし近年のブロック大会は複数の事業を同時に行うことにより魅力の発信が分散されています。より効率化した事業展開を実施し、地域と茨城ブロック協議会に変化をもたらしていく必要があります。
目的	ブロック大会の機会を活かした運動発信により、日立市に新たなイノベーションを起こすことで、地域全体の発展を生み出すモデルケースとなり、各地域においても挑戦したいという意識の向上を図る事を目的とします。
推進体制	連携パートナー：日立青年会議所、日立市、茨城県、茨城 JC シニアクラブ、日立青年会議所 OB 会 参加対象者：対内県内各地青年会議所 対外一般市民 20,000 人
実施日	9 月実施
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年ブロック大会連絡会議と調査して引継、資料確認を行います。 ・本年度中に日立市を視察して日立青年会議所との連絡を取り行政の協力を仰ぎます。 ・茨城ブロック協議会独自の大会テーマ開催理念を制定して一貫性のある目標を立てます。 ・来年早々には開催地青年会議所に赴き事業の打ち合わせと 1 月、2 月の総

	<p>会をして行政との協力体制を堅固なものにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を作成して対外に向けた SNS を用いての広報を行い、2 ヶ月に一度 PR 動画を作成して茨城ブロック協議会、県内各 LOM の SNS にて投稿します。 ・クリエイティブプロモーション委員会との 1 ヶ月に一度調整を行い動画作成の打合せを行います。 ・5 益の中の地域益に重きを置き、青年会議所のブランディングとなるような事業構築を行い、第 53 回ブロック大会日立大会議案を提出します。 ・議案可決後には 2 週間に一度現地会場打ち合わせを行い 8 月は週単位で打ち合わせを行い前年度の実施体制を確認してミスのないよう関係諸団体の打ち合わせを行います。 ・9 月大会開催前々日に現地入りしてリハーサルを行い、必要備品の確認、出演者への連絡を行い当日に備えます。 ・前日準備を入念に行うことで当日のトラブルを減らして、もしトラブルが起こっても柔軟に対応できるように茨城ブロック協議会と開催地 LOM の連絡体制を作り茨城ブロック大会日立大会を開催いたします。 ・事業開催後には各種事業の動員数とアンケートを中心にヒアリングして持続可能な事業かの検証をします。ブロック大会検証と並行して 5 益の検証もを行い、次年度に繋げる新たなブロック大会を調査します。 ・ブロック大会を検証した報告議案を提出して次年度開催地 LOM に引き継ぎして次年度につなぎます。
--	---

② 第 53 回ブロック大会主管 LOM との連絡・調整の実施

背景	<p>第 53 回ブロック大会開催に向けて、日立青年会議所との内容共有や行政との調整は早急に行動する必要があるため、情報を各 LOM に素早く発信するためにも連携を深める必要があります。</p>
目的	<p>日立青年会議所との情報共有を親密に行い、早い段階から行動する事により、細かな部分まで詰めた事業構築が出来ます。また茨城ブロック協議会と日立青年会議所が同時に情報を発信することで、茨城県内の皆様に事業の詳細を的確に伝播し、参加者を増やす事を目的とします。</p>
推進体制	<p>連携パートナー：日立青年会議所、日立市、茨城県、各企業 参加対象者：日立青年会議所、日立市、茨城県、各企業、市民</p>
実施日	<p>通年</p>
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度に日立市に赴き、日立青年会議所との連絡を取り茨城ブロック協議会と日立青年会議所でどう振り分けしながら PR 活動を行うか協議いたします。 ・県内各 LOM の総会と毎月行われる会員会議所に赴き、大会及び記念事業の PR をします。

	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブプロモーション委員会と1ヶ月に一度調整し、動画作成の打合せを行い、撮影をどのようにしていくかの打ち合わせをします。 ・PR 動画を作成して対外に向けた SNS を用いての広報。クリエイティブプロモーション委員会との連携を密に行います。 ・茨城ブロック大会日立大会後には広報の検証を行います。また、ブロック大会検証と並行して5 益の検証も行い、次年度に繋げる新たな5 益を確立します。
--	---

③ 第 53 回ブロック大会日立大会記念事業のサポートの実施

背景	近年のブロック大会は会員の減少で、各 LOM の参加動員も減少傾向にあります、記念事業の成功には複数の関係諸団体と各 LOM の連携が必要であり、協力体制の明確化、参加動員を促す必要があります。
目的	茨城ブロック協議会が記念事業でのサポートを行う事により日立青年会議所と関係諸団体、各 LOM 連携を取り、情報がより素早く伝わり早い事業構築をする事を目的とします。
推進体制	連携パートナー：日立青年会議所、日立市、茨城県、各企業 参加対象者：日立青年会議所
実施日	通年
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度にブロック大会運営会議と調査して引継、資料確認、日立市を視察して日立青年会議所との連絡を取り行政の協力を仰ぎます。 ・各 LOM の総会時に日立青年会議所と協力して茨城ブロック大会日立大会の PR をする総会の日付が重なる場合の事も念頭に入れて参加人数を確保します。 ・PR 動画を作成して対外に向けた SNS を用いての広報を行います。また、2 ヶ月に一度 PR 動画を作成して茨城ブロック協議会、県内各 LOM の SNS にて投稿します。 ・クリエイティブプロモーション委員会との1ヶ月に一度調整を行い、動画作成の打合せを実施します。 ・ブロック大会日立大会記念事業の明確なサポート体制を確立して記念事業に臨みます。記念事業開催後はサポートの検証を行い、次年度開催地 LOM に茨城ブロック大会のサポート体制の引継ぎを行います。

④ 第 54 回ブロック大会主管 LOM に関する調査・連絡・調整の実施

背景	近年のブロック大会では、会員数の減少や人的及び予算的な縮小により、その効果を発揮しづらい傾向にあります。開催地も限られた地域に集中しているため、より多くの情報収集を行い、開催地を選定する必要があります。
目的	地域が自ら輝く大会構築のために、主管 LOM と茨城ブロック協議会の連携を

	密にし、二者が最良のパートナーとなり力を合わせて運動を茨城に伝播することを目的とします。
推進体制	連携パートナー: 茨城ブロック協議会 参加対象者: 各 LOM
実施日	通年
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度にブロック大会運営会議と調査して引継、資料確認をして第 54 回ブロック大会主管 LOM を視察して日立青年会議所との連携を仰ぎます。 ・5 益の検証だけでなく開催における課題や事象を対象とした調査・研究を行い、結果をまとめて解決策を第 54 回ブロック大会主管 LOM に提示します。 ・第 54 回ブロック大会主管 LOM と協力して日立大会成功に向けての協力体制を明確化して、第 54 回ブロック大会主管 LOM と連携を行い、開催地としての進捗状況を確認します。 ・大会開催後は第 54 回ブロック大会主管 LOM の現地に赴き、現状の事業構築状況を調査します。また、日立大会での検証した報告議案を提出して、次年度開催地 LOM に引き継ぎをします。

⑤ 第 55 回ブロック大会主管立候補の調査・研究・協議の実施

背景	ブロック大会の歴史が受け継がれる第 55 回ブロック大会の主管 LOM に対し、地域への想いを醸成させ、地域を更に発展させる気概をもってもらう必要があります。また、茨城ブロック協議会の新たな運動発信の場を創出する必要があります。
目的	開催地 LOM が準備期間を有効的に活用し、大会を開催できるように事前に関係を密にしなが事業構築しやすいようにサポートすることを目的とします。
推進体制	連携パートナー: 参加対象者:
実施日	通年
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度にブロック大会連絡会議と連携をして引き継ぎを行い、第 55 回ブロック大会主管立候補の選定にあたり日立大会記念事業と本大会の事業構築を行う中で自ら手を挙げてもらうよう促し、主管 LOM の選定を行います。 ・第 55 回ブロック大会主管立候補の現地ヒアリングを行い、立候補 LOM が複数ある場合、ブロック大会連絡会のヒアリング状況を役員で精査します。 ・第 55 回ブロック大会主管立候補を決め、第 55 回ブロック大会主管立候補が決まり次第、次年度茨城ブロック協議会に引き継ぎします。

⑥ 持続可能なブロック大会の調査・研究・協議の実施

背景	近年は会員の減少や地域の変化に合わせた新しい形のブロック大会の開催が
----	------------------------------------

	必要とされており、茨城ブロック協議会にとってのブロック大会の本質を見極め、調査、研究を行う必要があります。
目的	ブロック大会の歴史が受け継がれていくように、変化する時代に即した大会の在り方を提案し、運動の継続性を高めることを目的とします。
推進体制	連携パートナー: 茨城ブロック協議会 参加対象者: 各 LOM
実施日	通年
施策の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度中に引き継ぎを行い第 53 回ブロック大会日立大会及び記念事業の持続性の調査を一年かけて行います。 ・今大会の連日開催のメリットを活かし、各 LOM に対して最大限の効果の確認をしてもらいます。今後のモデルになる事業を構築して今後の茨城ブロック大会の持続性を高めていきます。 ・大会終了後に持続可能なブロック大会の検証を行い、ブロック大会検証と並行して 5 益の検証も行います。次年度に繋げる新たな 5 益を確立して次年度開催地 LOM へ引き継ぎします。